

2006年 10月 31日

小委員会設置申請書

1.名称 英文名称は Sub Committee を付記	都市小委員会	英文 名称	Sub Committee on Urban Studies
2.所属本委員会 (所属運営委員会)	ユビキタス建築都市特別研究委員会		
3.設置期間	2006年 12月 ～ 2008年 3月		
4.設置目的	<p>(具体的な目標)</p> <p>本小委員会は、昨年度の無線 IC タグ(RFID)の事例調査をベースに、最新のユビキタス技術の環境や都市への応用のありかたを広範に把握し、今後の可能性を予見する。また、具体的に実証実験を実施することにより、ユビキタス技術が都市に与える社会的影響を明らかにしていくことを目的とする。</p>		
英 文	<p>This Sub Committee aims to grasp and foresee the possibility of the application of the latest ubiquitous computing technologies to the human environment and urban spaces. It also carries out some pilot experimental projects to verify social effects by ubiquitous computing technologies.</p>		
5.委員会の位置付け	<p>ユビキタス技術によるデバイスが環境の中に埋め込み、リアルタイムな情報提供により、人間の生活環境への影響を考える。また、ユビキタス技術の都市分野への応用を促進する。</p>		
6.委員会の構成 (確定している委員 予定者のリストを別 途添付する)	<p>(委員構成の考え方、分野別構成、地域性、公募制等)</p> <p>ユビキタス社会における都市に関して、研究実績・知見のある広範な分野のメンバーを組織して、研究活動を行う。(名簿は別添)</p>		

<p>7.活 動 計 画</p>	<p>(活動の具体的方法、内容)</p> <p>初年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ センシングに関する情報収集 ・ 「実証実験小委員会」との連携による実証実験の企画・実施 ・ ホームページでの公表 <p>2年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ センシングに関する情報収集（継続） ・ 「実証実験小委員会」との連携による実証実験の企画・実施（継続） ・ ホームページでの公表（継続） ・ ユビキタス技術が都市に与える社会的影響に関するまとめ 		
<p>8.期待される成果 と公表方法</p>	<p>(内容と公表形態)</p> <p>センシングに関する情報収集や実証実験から得られた結果から、ユビキタス技術が都市に与える社会的影響を整理し、報告書、シンポジウム、ホームページ等で広く学会員に提供する。</p>		
<p>9.設置を予定する WG</p> <p>英文名称は Working Group を付記してください。</p> <p>(WGがなければ記載不要。WGが2つ以上ある場合は別紙に記載のこと。必要なら各WG毎に小委員会設置申請書と同様の書式のを添付する)</p>		<p>英文 名称</p>	
<p>期間： 年 月 ～ 年 月</p>			

注1) 各項目に関して提示された事項に注目して記述してください。

注2) 合同小委員会、研究会を設置する場合にもこの書式を準用してください。

委員名簿

番号	会員番号	役職	氏名	勤務先 役職
1	9523542	主査	小林正美	明治大学 教授
2	9107590	幹事	山本俊哉	明治大学 助教授
3		幹事	小池 博	アルキメディア設計研究所 副所長
4	9726302		吉田友紀子	国立環境研究所 地球環境研究センター
5	0229688		高橋 潤	高橋 潤建築設計事務所 代表
6			倉林昭	日本電気 ユビキタスソリューション推進本部 主任
7			坂本修作	日本電気 第二製造ソリューション事業部 主任
8				
9				
10				
11				
12				

(注) 氏名の**太字**は、本委員会の委員。